

北海道遠別農業高等学校

日本最北の農業高校として地域や人をつなぐ

活動分類 ■教育・子育て ■食・産業・観光

活動背景・目的

地域と一体となった学校づくり「遠農活性化プロジェクト」、食の生産から収穫を体得

日本最北の農業高校として注目されており、地域と一体になった学校づくりを目指しています。食生活の大事さを子供の頃から学ぶため、食の生産から収穫を体験し、生産者の苦勞を体験することができる場所です。

農業高校を核にコミュニティーを形成し、地域の人をつなぎ、人の心の教育も大切にしています。

代表者:織井 恒(学校長)

連絡先:

〒098-3541 天塩郡遠別町字北浜74番地

TEL/FAX:01632-7-2376

活動地区:遠別町

活動内容

【遠農活性化プロジェクト】

光り輝く学校づくりを目指して、「遠農活性化プロジェクト」に取り組んでいます。小説「羊に名前をつけた少年」の出版。農場の生産物や加工品等を販売する「遠農高マルシェ」の开店。旭山動物園との連携した講演会や実習体験。しずお農場(士別市)などと連携した高校産めん羊のブランド化。ICT 利活用推進事業やホームページを通した情報発信等、数多くの取り組みをしています。

<http://www.enbetsunougyou.hokkaido-c.ed.jp/>

【地域の農水産品を使用した特産品開発】

遠別町の漁業者が養殖しているホタテの稚貝を使ったレトルト食品「ホタテカレー」や学校産ラム肉を使った「ラムシチュー」、学校産のシソを使った飲料「ベリーラ」ミズダコを使用した「タコソーセージ」等を製品化しています。

【交流学习】

全校生徒が、春はこども園の花壇造成や小学生との田植え、トウモロコシ・ダイズの苗植え。夏は生育状況を観察。そして秋は収穫と試食。さらに中学生には、



▲ 遠別農業高校アンテナショップ「遠農高マルシェ」



▲ ホームページをリニューアル



▲ 園児との交流学习

今後の展望・課題など

小さな町の農業高校が取り組んだ「活性化プロジェクト」。教師のやる気、生徒の学ぶ意欲が向上し、生き活きた学校づくりにつながりました。高校生が元気になるということは、町の活性化に向けた歯車がかみ合い、これからの方向性に光が注ぎ始めたということでもあります。あふれ出る意欲と探求心をさらに発展させることができるよう、遠別町や関係機関との連携を何よりも大事にし、活動を続けていきます。

地元農産物を活用することによって、農家の立場を知り、地元で生産された農産物の価値を知り、そして食と農のつながりが確実に生きる力につながっていることがわかりました。「食べる」側から「育てる」側への住民への食育と本校生徒の教育という車輪のような(二つの対をなす)関係を体得できる良い機会となっています。